
立田山から見た黒髪校区

## 立田山の豊かな緑と白川の流れに抱かれて

**中央区**最大の広さをもつ黒髪校区。幼稚園から大学まで全ての公立学校が揃う珍しい校区です。中でも熊本大学は、旧制第五高等学校を主な母体とする歴史ある学校。県内外から多くの学生を集めています。また、五高記念館やリデル、ライト両女史記念館、泰勝寺跡などの記念館や史跡が多く、現在の熊本を語る上で欠かせない歴史に触れることができる地域でもあります。立田山に白川、坪井川と自然に恵まれていることも地域の誇りの一つです。

そんな校区の持つ自然環境や歴史を、地域住民にも知ってもらい、地域を大切にする気持ちを育もうと、平成24年度には、黒髪校区の第4、5町内自治会で「くろかみ下立田ガイドマップ・立田山散策まっぷ」が作成されました。マップには、黒髪校区に残る多くの史跡と立田山の散策ルートが記載され、校区の歴史や自然に親しむきっかけにもなっています。

## 助け合いの心を生む防災クラブの組織化

**実は**黒髪校区が校区自治協議会を設立したのは平成24年度のこと。まずは、町内ごとに独自で行っていた防災班組織をまとめ、校区全体として隣保班を組み直したり、自主防災クラブをつくることから始めました。「高齢者が子どもの3倍いて、道が狭く、坂が多いのがこの校区の特徴。平成24年の水害もあり、多くの人が自主防災クラブに加入して機能しだしています」と黒髪校区自治協議会の伊東孝保会長は言います。現在、校区内の全町内で防災クラブ設立など自主防災の取り組みが進んでいます。高齢者をいかに誘導するか、住民がどのように動くかなど、組織的な行動の基準ができ、住民全体に助け合いの機運が高まりつつあるそうです。「自分たちの地域は自分たちで守る、というのが基本だと思っています。高齢者が一人暮らしをしている家がどこにあるか、などの状況を随時把握して『災害時要援護者支援マップ』を作成したり、これを活用した一人暮らしの見守りを行ったり、若手リーダーを養成したり、それぞれの町内の現状にあった独自活動も出てきています。安心して暮らせる環境づくりが進んできたと言えますね」。


町内での災害時訓練





かつて第五高等学校とよばれ、各界のリーダーを輩出した熊本大学。赤レンガの門や校舎が当時の名残を感じさせる

# 歴史ある大学を擁する、グローバル最前線のまち


読経法要や子どもみこしで賑わう地蔵祭り。高齢者の参加者も多く、地域交流の場として欠かせない行事